

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300445		
法人名	株式会社 アクタガワ		
事業所名	ハートフルホーム厚原 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡県 富士市 厚原179番地1		
自己評価作成日	令和5年1月3日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハートフルホーム厚原は平成26年5月にオープンした施設です。1階がグループホーム1ユニットと隣に小規模多機能型居宅介護が併設になっています。
 施設の周りには茶畑や田んぼがあり、富士山も見える環境にあるため、散歩をする際はお客様が季節を感じる事が出来ます。新型コロナ感染症拡大防止の為に、事業全体でにアクリル板を設置しお客様もマスク着用、手指消毒、1時間に1回の換気を行って、グループホームへの感染防止に努めています。ご家族様にも安心して頂く様に、家族とお客様の面会もZoom面会・窓越し面会で対応しご家族様と会える工夫をし、施設内のご様子は、月に1度の通信で報告(近況報告)しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2292300445-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 1 月 30 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は畑や田んぼに囲まれ富士山がきれいに見える環境で、利用者は車通りが少ない南側を利用して気分転換に散歩に出かけている。事業所はデイサービスと小規模多機能が併設されている複合施設で、車を借りてドライブに出かけたり、コロナ前は交流も行われていた。今年度は運営推進会議をZoomで行い意見が多く出され、海外の家族との会話を楽しむ事もできた。感染対策に力を入れ、今年から医療用マスクを全職員が使用し利用者にもマスクを使用してもらい、現在までクラスターの発生がなく、グループホーム内で夏祭りや誕生会おやつ作り等のレクを楽しんでいる。職員は意見が言い易く情報共有もされ、メディバス研修は充実しており、本部のスーパーバイザーが疑問点など相談にのってもらえる環境が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念としてハートフルホーム厚原としての理念を職員で共有しており、1か月に1回のチーム会議を行なう前に、職員全員で理念の唱和を行なっています。	事業所の理念はフロアに掲示しており、会社の理念はチーム会議で唱和している。職員は理念が書かれた小型の手帳を持参し、理念に基づいて年間目標を作成し半年毎に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入っておりますが、感染症蔓延防止の為、今年度は地域のお祭りや防災訓練に参加出来ませんでした。ご近所へ散歩の際、地域の方に声を掛ける等と地域の一員として役割意識の持てるような機会を設けています。	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得る事ができるが、現在イベントには参加の意向はあるがコロナで開催されていない。施設周りを散歩する時には近所の方と挨拶を交わしている。毎月、アクタガワの日には清掃活動を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月14日を「アクタガワの日」として制定し、地域貢献の一環として近隣を清掃しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。その場では入居者情報をお伝えしたり、活動報告をしています。御家族や町内会長、市役所職員や地域包括の職員のご意見やご要望を伺って、活動に活かしています。	今年からZoom会議を1回開催し、参加者から意見が多く出された。昨年までは、書面開催で行い、資料を送付し、意見を聞き、家族や自治体等の関係先に再度議事録を送付している。職員も議事録を閲覧している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市役所の方と地域包括の方が交互に出席してくださっています。そこで情報の共有やアドバイスを頂いています。	包括支援センターからは入居の相談がある。グループホーム連絡会に加入し、2か月に1回、Zoomで会議が行われ、他事業所との情報交換の場になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしている中で、職員と一緒に身体拘束について勉強会を行なっています。また、お客様の安全を考えながら、施錠を含めて身体拘束にならないよう取り組んでいます。	指針、マニュアルは整備され、委員会は全職員が属し、3か月に1回チーム会議の日に開催され、研修は本部の計画で年に2回行われている。また、メディパスを使い、職員は個人で随時研修をしている。	

静岡県(ハートフルホーム厚原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成していません。職員は年2回虐待防止自己チェックを全職員行ない、常に注意して取り組んでいます。また、高齢者虐待についての勉強を教育計画に入れて、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて成年後見制度について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には、重要事項説明書等の必要書類を用いてご説明・ご質問の時間を設けています。そしてご理解・ご了承を頂いてから署名・捺印をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議やお客様アンケートを通じてご意見を頂き、検討しています。	2か月に1度、写真を掲載して担当者が近況とコメントを記入し家族に通信を送付している。また、法人は1年に1度、家族アンケートをとり、結果を全事業所で共有して運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーム会議、カンファレンス時や業務の際に職員の意見や考えを確認し、個別面談を行って話を聴き、反映させています。	施設長と職員は1年に2回、個別面談を行っている。チーム会議やカンファレンスを行う時には職員からの意見もあり、職員間は話がしやすく情報も共有されている。法人でアプリを使用し、職員間でのコミュニケーションが取りやすいように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定し、随時評価面談を行っています。また、キャリアパス制度を活用しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修計画に基づき、管理者職員に知識・技術の向上を図るとともに、社外研修にも参加して頂いています。そこで学んだことを参加していない職員につたえる場を設けて、共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や富士市グループホーム連絡会に参加し、交流が図れています。その中でも連絡会で、他事業所と交流出来る場を作っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前にご本人、御家族様、ケアマネジャー、医師に聞き取りを行い、その人らしい暮らしが入居後も出来るよう、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に御家族と話し、悩みや要望、相談について伺っております。入居後は、お客様の事業所での様子等について情報共有をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所にて提供できるサービスをお伝えし、その中からお客様・ご家族様の希望するサービスをしっかり把握して情報提供をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様に出来る家事等のお手伝いをして頂いています。また、お客様同士と一緒に楽しめるようなレクリエーションを考え提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の生活歴をお聞きしたり、事業所での日中のご様子をお伝えしたりしています。また、お客様の写真の入った通信をお渡しする事で、御家族様とお客様との会話のきっかけを提供しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越し面会など御家族との関係性が継続できるような取り組みをしています。通信などを通して状況報告をして御家族様にも安心して頂けるような取り組みをしています。	窓越しやZoomで面会を継続している。コロナが落ち着いた時には談話室でパーテーション越しに面会を行い家族との電話の取次ぎの協力もしている。個人で携帯電話を所有している利用の支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で協力して家事や体操、レクリエーションに取り組んでいただく事で会話のきっかけを提供しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も何か相談事がある際には親身になって対応しています。また、施設でのイベント等の際には、通信などでお知らせしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりと向き合い、お話しを傾聴する事で、ご本人の希望に寄り添う支援となるよう努めています。	利用者は現在は直接自分の思いを伝えられる方が多く、情報共有は申し送りノートに記入したものを全職員が見て周知している。利用者とは、常に視線を合わせて会話をするように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様やこれまで担当していたケアマネジャーから話を伺い、サービスにつなげるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別対応表や介護経過記録用紙、申し送りノートを活用し、常にお客様の現状の把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チーム会議を開催し、その中でお客様についてのカンファレンスを行なっています。意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映出来るよう努めています。	毎月のカンファレンスは変化のある人や更新が近い人から行い、モニタリングは毎日タブレットに全員分入力している。更新時にはケアマネジャーが担当職員、医師、看護師、OT、家族の意見を反映して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を有効活用し、チームで情報を共有しながら、アイデアを出し合っています。また、アイデアを元の実践し、随時介護計画を見直すようにしています。		

静岡県(ハートフルホーム厚原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回の訪問理美容の手配、イベントの開催をしています。感染症の状況によりイベントの参加、地域行事の参加・他事業所との交流等といった取り組みが継続できる様に連絡を取り合っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時に地域の方に挨拶をするなど、安全に支援が行えるよう職員がサポートしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の提携医と連携をとっていますが、本人とご家族様の要望により、先生を選択出来るようにしています。また、御家族様の意向に合わせ、状況に応じて通院介助も行なっています。	利用者全員が施設の協力医の往診を受けている。他科の症状についても初期対応をしてくれ、場合によっては専門医への紹介をしてくれる。週1回、訪問看護師が来所し、協力医、看護師共に24時間対応で利用者の体調について相談ができる体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の体調が優れない時は医療連携している訪問看護ステーションに連絡を取り、連携をしています。また、主治医とも連携がとれる体制を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の相談員の方と情報交換を行ない、その後の対応方法については主治医と相談して決めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応及び看取りに係る指針を作成しています。それを御家族様・ご本人に説明を行なっています。また、主治医とその御家族様、訪問看護と連携をし、最期までその人らしい生活が出来るように支援しています。	入居時に事業所の指針を説明し、利用者、家族の同意を得ている。利用者の状態によって医師が家族、事業所に説明し、事業所は再度、家族の意向を確認して、支援に取り組んでいる。職員は看護師の助言やメディパス、本部のスーパーバイザーのアドバイスを参考にしてケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時・緊急時対応マニュアルを持ち、チーム内研修を通じて対応確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認や消火訓練等、施設にて防災訓練を行なっています。	コロナ禍で地域の防災訓練が行われなかったが、事業所は地域の避難場所になっている。施設では1年に2回計画書を消防に提出して地震から火災の想定で防災訓練を行っている。夜間想定訓練も行っている。	コロナ禍で、災害対策の話し合いや計画が進まなかったことがあるので、長期停電対策の継続と実際に夜勤を行う職員の夜間想定訓練を行い、運営推進会議で報告をして意見をもらい災害に備えられるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チーム内研修時に接遇を確認したり、社内でWEB対応にて個別で、研修を行ったりしています。	「利用者はお客様」という意識を持つように定期的な研修とユマニチュードの研修も取り入れている。トイレへの誘導は耳元で利用者とは視線をあわせて話しかける等気をつけている。課題のある職員にはその都度、リーダー、管理者が注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様におやつメニューの希望を聞いたり、レクリエーションの時間に何がやりたいかを尋ねたりしています。可能な限りご期待に沿えるよう、努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お手伝いや体操、レクリエーションの参加は強制ではなく、自主参加にしています。お客様に予定を告げ、お客様の積極的な参加を促しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で使われていた私服を持って来て頂いています。また、着用する際はご本人様に何が着たいかお伺いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の能力に応じて職員と一緒に食事作りのお手伝いをして頂いております。また、食後の食器洗いと食器拭きもお願いしています。	食材と献立が業者より届き、職員が主に調理している。無理のない範囲で利用者には野菜の皮むき等手伝ってもらい、食器拭き、テーブル拭きは積極的に関わっている。職員は利用者の好みをわかっているため、おやつレク、行事食には食材を準備して、利用者が楽しめるように工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック表と水分量のチェック表を使って1日の食事・水分が適切なものになるよう支援しています。また、塩分制限の必要なお客様にも配慮しています。		

静岡県(ハートフルホーム厚原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、声かけと見守りを行なう事によって口腔ケアを徹底し、口腔内を清潔に保っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら排泄のパターンを把握し、定時にトイレ誘導を行なっています。可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援しています。	個々の排泄パターンを把握して、時間や様子をみてトイレ誘導をしている。現在、自立でトイレへ行く利用者が多く、さりげなく見守りながら排泄チェックをしている。夜間は介助の必要な利用者はオムツを、自立の人には転倒に留意しながら支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめにさせていただいたり、体操をしていただくことにより対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を強制するのではなく、ご本人が入りたくなるような声掛けを心がけています。ご本人が入りたくない時には他の時間や曜日に振替を行なっています。また、季節風呂を行ない、楽しめる工夫をしています。	週3日、月、水、金の入浴を基本にしている。入浴を専門に担当する職員がおり、現在入浴を嫌がる利用者は少ないが、入浴を楽しめる声かけや入浴剤を入れたり、季節風呂を取り入れたり工夫をしている。併設の小規模多機能に機械浴の設備があり利用ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣を尊重し、ご本人の落ち着いた服装と寝具にてお休みいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表や内服薬の説明書を用いて服薬時の薬の理解・支援を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりが生き生きと過ごせるよう、ご本人の趣味や特技を活かせる場(例:おやつレク等)を提供しています。		

静岡県(ハートフルホーム厚原)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に散歩やドライブにお連れして気分転換を図っています。また、外出できる機会を継続し、お客様の希望に沿えるよう支援をしています。	コロナ禍で外出レクや家族との外出、外食はできていない。現在は施設周辺の散歩、駐車場で大気浴を行い、時折ドライブを楽しみながら公園に出かけている。少しずつ様子をみながら、利用者が楽しめる外出を計画中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては御家族様に当施設では管理できない旨をお伝えしています。御家族様に了承を得て、外出レク等で好きな物を買う機会を作っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様に了承が得られた際は対応させて頂いております。お客様からご家族様と連絡を取りたいという要望があった際には、職員が取り次ぎ対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様にとって馴染みやすく、親しみやすい居住空間作りを心がけています。	居間は三方に窓があり、明るく陽ざしも良く暖かい。掲示物は決められた場所にのみ掲示してあるので、全体的に整然としている。利用者はマスクをつけ、食事のテーブルにはパーテーションを設置し、席替えも時々行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席を決める際、お客様の交友関係を配慮し、お客様が和気藹々と過ごされる配置となるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の使い慣れた家具や家族の写真等を取り入れ、ご本人がくつろげる空間となるよう配慮しています。	利用者の衣類や布団等が充分収納できるクローゼットが備え付けられている。家からも衣類収納ケースやテレビが持ち込まれているが、動線の確保も考えて配置されているので、部屋全体がすっきりしている。家族の写真をベッドで休んでいる時に見えやすい場所に置いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂等の場所には色のついた印をつけて分かりやすくしています。		